

ウッドデッキ

ウッドデッキは新築やリフォームでは人気の建材で住宅の庭やマンションのベランダに施工される方が増えてきました。様々な樹種がありますが、産地、樹齡、板取の場所によってそれぞれ特徴が異なります。しかし、『木製の甲板』の直訳のように、もともと洋船やヨットの甲板に使用されていたものですから、どの樹種でも水に強い特徴があります。比重が高く、水に沈むほどの高密度なものもあれば、木材自体が腐りにくく、防虫作用を持ったものもあります。主なウッドデッキの材質や施工方法など下記にまとめましたので、施工の際には参考にして下さい。

■物性データ

樹種名	産地	種類	比重 (全乾比重)	強度 (kg/cm ²)			色 (施工後)	耐久性	詳細
				圧縮	曲げ	ヤング係数			
ウリン	インドネシア	熱帯 広葉樹	0.96	911	1886	183	茶褐色より グレーに	◎	海中における耐朽性が優れており、フナクイムシやシロアリ等虫害に強い。また、高密度で寸法安定性にも優れています。両面Aグレード仕様でどちらの方でも歩行面として使用できます。稀に雨水によるアクのしみ出しが施工周辺に付着する場合があります。施工場所には注意が必要です。
イペ	ブラジル	熱帯 広葉樹	1.2	922	1775	220	茶褐色より グレーに	◎	ラパコールという成分が防虫・防蟻の効果をもたらしています。また、高密度で耐朽性・耐候性に非常に優れており、処理なしで、25年以上腐りません。
サイプレス (檜)	オーストラリア	針葉樹	0.7	540	800	92	淡黄色より グレーに	○	ひのき独特の香りが特徴で、白蟻に強いヒノキチオール成分が含まれている為、腐りにくく耐久性にも優れた木材。日本などで高耐久と言われるひのきをもしも上回りますが、アイアンウッドなどの重歩行ほどの硬さはない為、当たりが柔らかく、木に触れている感じが味わえるのが特徴のひとつです。
イエローパラウ セランガンバツ	マレーシア インドネシア	熱帯 広葉樹	0.94	701	1331	186	黄褐色より グレーに	○	耐久度が高く、コストパフォーマンスも優れた木材です。辺材は淡黄色、心材は黄褐色から赤褐色まで様々。大きなサイズは割れが出やすい上、乾燥が進むにつれ進行しやすいのですが、硬く重く非常に高い曲げ強度と圧縮強さを持っており衝撃にも強い木材です。
レッドウッド	北アメリカ	針葉樹	0.46	311	601	71	赤褐色より グレーに	○	針葉樹の祖先として、また現存する世界最長の木として知られるセコイアの植林材です。芯材はピンクから濃褐色で加工が容易で仕上がりは美しい。この芯材部分は「タンニン」が多く含まれ腐食や白蟻に対し強い抵抗力を持っています。したがって防腐処理は不要です。曲げ強度や圧縮力のわりには、木理は直直で収縮率が低く寸法安定性に優れています。大気に晒されると表面が黒ずんでくるので、仕上がりに保護塗料を塗布する事をおすすめします。
アマゾンジャラ	ブラジル	熱帯 広葉樹	1.06	2138	1129	196	茶褐色より グレーに	◎	近年デッキ材として注目され、南米のハードウッドの中では最も肌触りがよく色目の綺麗な材料です。耐久性は高くシロアリやフナクイムシに対して対抗性があります。ウリンと同様の超硬質材。硬質にもかかわらず木理直直のため製材は比較的容易、反面クランクが入り易い木理なのでビス止めの際には下穴が必要です。

デッキ施工のワンポイント・アドバイス

当社では三十年にわたり、インドネシアやフィリピンから材木の輸入を手がけてきました。その頃はデッキ材とは言わず、ベランダ用材木やスノコと呼ばれていました。ウリン・イペ材は海外の商業・公共施設にも使用されているように、高レベルの強度・耐久性を有し、水に強く、耐火性も抜群。デッキ材としては最高の素材です。イタウバ材は天然の油分が含まれていて、この油分によってしっとりとした表面と割れにくい粘り強さが生まれます。水中・土中での耐久性も高く、シロアリなどへの高い抵抗性も兼ね備えています。サイプレス材はオーストラリアン檜と呼ばれ、比較的安価なものと材木自体にヒノキチオールが大量に含まれ、防虫・防腐作用があります。また当たりが柔らかく、木に触れている感じが味わえます。

さて、デッキ施工ですが今まで輸入元として様々なクレームを見てまいりました。下記がその主なものです。

1.色が変わる 2.割れる 3.腐る 4.異臭がする 5.虫がいる 等々です。

外部に施工されたものですから紫外線で色が変わったり、乾燥して割れたり、反ったりするのは多少仕方がありません。しかし、デッキ施工で注意しておかなければならないのは、通気です。昔のようにベランダ程度のものでしたら困ってしまっても大した影響はないでしょうが、デッキングであればかなり広いスペースが想定されます。ところが、ほとんどの施工においては根太や柄が見えないように箱を作ってしまう。これが原因で柄が腐ったり、悪臭を出したり、シロアリやゴキブリの温床になってしまいます。きれいなデッキ施工は右記を注意して下さい。

- 1.新築の場合はデッキ下地の処理は基礎工事の段階でやっておくのがよいでしょう。ステコン木ゴテ押え程度。デッキの端に向かって(家の反対方向に)水勾配をとりましょう。コンクリート下地は、雑草や虫の進入を防いでくれます。
- 2.デッキ材の間隔は10mm以下がきれいです(基本4mmから6mm程度)。経年変化による収縮が出ますのでご考慮ください。
- 3.根太や柄は同材の必要はありません。ウリンやイペなどは非常に硬い素材なので施工がしにくくなります。安価な素材で骨組を作り、防蟻処理や防腐処理をします。これらには顔料が含まれていますので着色されます。色は仕上のデッキ材に合わせましょう。当社のお勧めはドイツ玩具安全基準に適合した塗料、**キシラデコール**(日本エンパイロケミカルズ:防腐・防カビに優れた効果があります)です。ニス仕上げは黒ずみの原因になるので、避けて下さい。根太ピッチは現場状況や仕様などにより異なりますが、デッキの厚みの約20~25倍程度になっていることが多い様です。
- 4.釘施工はもらい錆びの原因になりますので、ステンレス施工をお勧めします。時間と手間はかかりますが、ドリルで下穴を開けておくと締め易くなります。(太さ5mmのビスであれば下穴4.5mm程度)ビスの太さはデッキの厚みは関係なく4mm以上がオススメです。ビスが折れてしまったりする可能性が低くなります。
- 5.木柄よりは銅製脚を使われると、土蟻・シロアリ・ゴキブリの進入を防げます。

ウッドデッキ色落ち試験

●試験場所／大阪市中央区北浜1-9-15
●試験場所／大阪市中央区北浜2-1-7

・試験開始時間／2003年8月26日 PM 17:03
・試験開始時間／2006年6月 7日 PM 19:30

・試験終了時間／2003年8月27日 PM 17:22
・試験終了時間／2006年6月 8日 PM 19:30

試験の目的

ウッドデッキ施工後に、雨でウッドデッキ自体の色が落ちて雨が当たる部分のモルタル下地が、茶色に染まってしまったというクレームが発生しました。どんな樹種でも約半年から1年ほどアクが出て、色も落ちますが、どの程度かを比較するために実験しました。

ビーカーに600ccの水を入れ、それぞれの木片を80×120mmにカットして24時間ドブ漬けしました。室温は26℃で現場の環境とは異なりますが、樹種によってはかなりの色落ちが発生します。使用する場所によってデッキ材を選ばれることをお奨めします。ぜひ設計プランの参考にしてください。



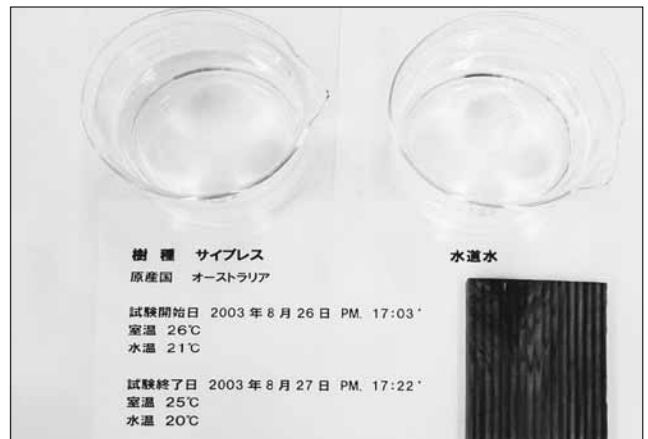
ウリンはかなり激しく色落ちします。



クマルはイベと同色の黄色のあくが出ました。



イペも黄色に色落ちしました。



サイプレスが材自体が薄い色ですが、アクは出ました。抽出水はヒノキの香りでした。

※2階以上の雨がかりに素通しでデッキ施工される場合は1階の床・壁・自動車・洗濯物を汚染する可能性がありますので設計には十分ご配慮下さい。